

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分とB区分の両方
------	------------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃひとみざ		団体ウェブサイトURL
	有限会社ひとみ座		https://hitomiza.com/
代表者職・氏名	代表取締役 倉 正人		
制作団体所在地	〒 211-0035	最寄り駅(バス停)	東急東横線元住吉駅
	神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
電話番号	044-777-2225		
ふりがな 公演団体名	にんぎょうげきだんひとみざ		団体ウェブサイトURL
	人形劇団ひとみ座		https://hitomiza.com/
代表者職・氏名	劇団代表 中村 孝男		
公演団体所在地	〒 211-0035	最寄り駅(バス停)	東急東横線元住吉駅
	神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
制作団体 設立年月	1964年 10月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表取締役 倉正人 取締役 中村孝男・田坂晴男・甲斐勝行・石川哲次 監査 税理士法人昴星(岩田克夫)		(1) 団体構成員 計58名 劇団員39名、嘱託6名、研究生5名、団友8名 (2) 加入条件 ひとみ座養成所を卒業後入団
事務体制 (専任担当の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	石川 哲次
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	宇野 かよ

<p>制作団体沿革</p>	<p>1948年「劇団ひとみ座」を鎌倉市で創立、翌年「人形劇団ひとみ座」に名称変更をする。小学校の芸術鑑賞教室、幼稚園・保育園での鑑賞会、全国ホールでのツアーなど、人形劇の専門劇団としての活動を展開する。</p> <p>川崎市に本拠地を移し、1964年に「有限会社ひとみ座」を設立。同年、NHKテレビ人形劇「ひょっこりひょうたん島」が放映開始、人形美術・製作・操演の全てを担当する。1983年に神奈川県文化賞と川崎市文化賞を受賞。他これまで作品での受賞多数。</p> <p>2005年より日生劇場プロデュースの人形劇ミュージカルに、出演・人形美術及び製作で参加。これまで14作品の公演に関わり、2022年度は「エリサと白鳥の王子たち」に参加、日生劇場を含む全国4カ所での公演を実施する。</p> <p>2018年度～2019年度には、「まっふたつの子爵」県民共済みらいホール公演、「どろろ」川崎市アートセンター公演、「みつあみの神様」シアターグリーン公演を創立70周年記念事業として実施した。2020年度より本事業B区分団体、及び文化庁舞台芸術創造活動活性化事業の複数年計画支援団体として採択継続中(3年間)。</p>	
<p>学校等における公演実績</p>	<p>首都圏を中心に全国の小学校での巡回公演を、創立以来当劇団の中心的事業として、多彩な作品を制作・公演する。例年200～300回の公演を実施している。</p> <p>2021年度は、学校独自の事業に加えて、各市町村の教育委員会等主催による事業、僻地支援を趣旨とする日本児童青少年演劇協会主催による事業にも参加した。コロナ禍においても、感染防止に万全を期して、同様の活動を継続している。</p> <p>～2019年度学校公演実績(本事業を除く)～ 「弥次さん喜多さんトンちんカン珍道中」 71校92公演 「岸辺のヤービ」 34校43公演 「9月0日大冒険」 24校32公演 「ズッコケ時間漂流記」他 40校57公演</p>	
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>徒歩圏内に川崎市立中原養護学校があり、公演実績はもちろん、劇団訪問(町探検・職場体験等)やワークショップなどを含めた日常的な交流を実施している。</p> <p>他、川崎市立田島養護学校、川崎市立川崎養護学校など、主に神奈川県内の養護学校で多数の実績を持つ。障害の度合いに応じたプログラムを企画して対応する。</p> <p>令和元年度文化芸術による子供育成総合事業では、栃木県立足利中央特別支援学校で公演を実施、対面を含む準備や打ち合わせを行い、実情に応じたプログラムを実践した。</p>	
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>
<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=ftCRE6Fe7Qw&list=PLzI2vTx41weWdHgQZm6IRephs68ujr8sy</p>	
<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>
	<p>PW:</p>	<p>なし</p>

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 人形劇団ひとみ座】

対象	小学生(低学年)	○	/	
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	-		
企画名	人形劇『9月0日大冒険』			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	人形劇『9月0日大冒険』 原作/さとうまきこ『9月0日大冒険』(借成社) 脚本/大西弘記(TOKYOハンバーグ) 演出/中村孝男 美術/小川ちひろ 音楽/庄子智一 音響/遠藤宏志(アコルト) 照明/石川哲次 制作/石井セリ・石川哲次 <div style="text-align: right;">公演時間 100 分</div>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	『9月0日大冒険』原作
	該当事項がある場合	権利者名 さとうまきこ	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>本作は、児童文学「9月0日大冒険」(さとうまきこ作)の人形劇作品です。小学生3人の友情と冒険を描いた本作品を、2019年度より全国の小学校や公立文化施設にて巡演しています。</p> <p>～相手への興味から生まれる本当の人間関係～</p> <p>教育プログラムにおいて共生社会の実現が強く意識されるようになりました。一方で、児童の悩みの上位には依然として「人間関係」が挙げられ続け、「自分とは違う相手を理解して受け入れること」すなわち「共生の理念」を児童が理解実践することは、決して簡単なことではありません。この作品は、お互いをほとんど知らない3人の小学生が、冒険を通して友情を育む過程を描いたものです。表面上の言動だけを根拠に相手をレッテルで捉えていた3人が、相手の言葉や行動の根拠となっている価値観や感情を想像することで、初めてお互いを理解して興味を持ち、本当の友人になっていく過程を描いています。まさにそれは人間関係の基本であり、児童が未来の社会で形成する共生社会の基本でもあります。</p> <p>～協力しながら困難を乗り越える過程そのものが『大冒険』～</p> <p>児童の日常では、新しい課題への挑戦が連続します。学習から人間性の形成、人間関係の構築に至るまで、とても一人では背負いきれない無数の壁を、友人と協力しながら一つ一つ乗り越えていく必要があります。作中で主人公たちは、3人の長所を出し合い短所を補い合うことで、一つ一つ困難を乗り越えていきます。その挑戦は、間違いなくその後の人生の大きな支えとなる経験であり、まさにそれは「冒険」と言うに相応しい行為です。作中に登場する名台詞『君だけの特別な一日、さあ冒険に出かけよう』に込められたメッセージを、観劇を通して児童と共有しながら、「仲間と共に諦めず挑戦をすることの素晴らしさ」を伝えていきます。</p>			
演目選択理由	<p>本作は、令和元年度に文化庁舞台芸術創造活動活性化事業の年間活動支援に採択されて制作された作品で、その後全国各校より上演依頼を受けている、人形劇団ひとみ座の小学生向け作品です。その高評価の根拠の一つは、「子供同士の素朴な人間関係」を描いた本作のテーマです。この物語は、お互いを全く理解していないクラスメイトの3人が、お互いを理解することで少しずつ友情を育む過程を描いたものです。</p> <p>小学生のスマートフォン所有率は50%に及び(令和元年度総務省調査)、児童は早くからSNSでの人間関係に触れています。そこでは同一の意見を持つ者同士が簡単に集まれる一方、「違う意見を持つ者同士がその相違点を認め合い乗り越える」という本当の人間関係力の基礎が育まれません。「国際化」「社会包摂」「ダイバーシティ」など、現在進行形で世界の進歩に向けて話し合われているテーマはいくつもありますが、そのほとんどを解決するために必要な能力こそ『異文化コミュニケーション力』です。</p> <p>密な空間で児童同士が触れ合う機会が奪われている現状だからこそ、人間関係構築や友人関係の素晴らしさをテーマとして扱っている本作は、本事業に非常に相応しい作品だと考えています。</p>			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>児童は、複数人数で1体の人形(恐竜)を操ります。劇中に登場する恐竜の生きていた時代がシチュエーションです。</p> <p>複数人数で1体の人形を操るためには、児童同士が息遣いをお互いを感じながら動く必要があり、無言のコミュニケーションが求められます。これは、日本の伝統的な文楽の遣いと同一発想です。ストーリー上のテーマと、共演でのテーマをどちらも『コミュニケーション』とすることで、共演と観劇の相乗効果を高めていきます。</p> <p>また、ワークショップで児童オリジナルの「新種恐竜」を作り、それを共演時に登場させることで、児童の興味関心や主体性を誘発していきます。尚、恐竜の人形は、全て当劇団より持ち込みます。</p> <p>他にも、終演後の児童から出演者への質問コーナー、舞台の裏側を覗くバックステージツアーなども積極的に提案していきます。</p>			
出演者	堀沢純役…照屋七瀬 白鳥理子役…佐伯左京 中井明役…森下勝史 堀沢響子役…篠崎亜紀 堀沢真役…齋藤俊輔 他…末永快・金子優子・龍蛇俊明・松本美里			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 9 名 スタッフ: 1 名 合計: 10 名	運搬	積載量: 2 t 車長: 7 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	8時30分	8時30分～11時30分 →(共演リハーサル) 11時30分～12時10分		13時～14時40分	10分	15時～17時	17時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	10日	0日	0日	15日	10日	
	11月	12月	1月	計	65日	
	5日	15日	10日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	100名
		鑑賞人数目安	500名



(図1) 体育館フロアに舞台を設置した状態。
舞台設置に必要な大きさ、間口10m×奥行7m×高さ4m



(図2) 舞台を横からみた図。舞台は体育館のステージ上ではなく、フロアに設置します。

【「9月0日大冒険」上演の様子】

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)



(図3) 夏休み最後の日の深夜、小学校四年生の純が、日めくりカレンダーをめくると、「9月0日」の日付が。



(図4) 気が付くと窓の外にはジャングルが広がっていた。冒険の準備を整え「9月0日」の世界に飛び出す純。



(図5) 「9月0日」の世界で純と同じように、つまらない夏休みを過ごしたクラスメイトの理子と明に出会う。



(図6) 三人が進んだ先には、見たこともない自然と生き物。そこは、恐竜が生きる白亜紀の世界だった。



(図7) 過酷な自然の中で、火をおこし、魚を捕り、恐竜を追い払い。三人は時にぶつかり合いながらも力を合わせて、大冒険に挑んでいく。



(図8) 洞窟で眠ったはずの純が目覚めると、いつもの自分の部屋。慌てて学校に向かうと、自分と同じように日焼けした理子と明の姿があった。三人は、かけがえのない友人になっていた。

※採択決定後、採択団体へ図面等詳細の提出をお願いします。

【公演団体名 人形劇団ひとみ座】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100名
<p style="text-align: center;">ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>標準:90分(小学校の2時限分)</p> <p>児童は複数人で1体の人形(恐竜)を操ります。普段私達はどのように「立つ」「座る」「歩く」などの行動をしているのかを改めて確認しながら、さらに「恐竜ならどう動くのか」に発想を広げていきます。実際に動くときは、お互いの呼吸を感じ取り、タイミングをとることを意識します。</p> <p>①共演内容の説明 講師が人形劇『9月0日大冒険』全体、及び共演する場面の説明をします。児童が設定を理解して、恐竜の人形を遣う準備をします。 ～共演場面の概要～ 時代は白亜紀。陸にも空にも様々な恐竜が暮らしている。その中で見たこともない新種の恐竜が現れる。注目が集まる中、やがて新種恐竜は卵を産み、卵から赤ちゃん恐竜が次々と誕生する。</p> <p>②グループ毎に分かれて、恐竜人形の遣い方を習得 恐竜人形1体を3～5名で遣います。児童は遣う人形ごとにグループに分かれて、人形の遣い方や呼吸の合わせ方を体験します。</p> <p><休憩></p> <p>③オリジナルの恐竜を創り出す 児童の自由な発想で、作中登場する新種の恐竜をオリジナルで考えます。名前・特徴・鳴き声などをみんな考えて、一切装飾のない白地の恐竜人形に目鼻などを加えて、新種恐竜を完成させます。</p> <p>④共演部分の練習 共演部分を最初から最後まで通して練習します。</p>		
<p style="text-align: center;">ワークショップの ねらい</p>	<p>～言葉に頼らず、息を感じて、気持ちを合わせる体験～ 「右足を前に動かして」など言葉を使って指揮をとれば、複数児童で1体の人形を遣うことは簡単です。しかし、それはお互いが段取りを決めて動いているだけであり、演劇の本質ではありません。お互いの呼吸やしぐさからその意志を感じ合うことで、コミュニケーションのキャッチボールが生まれます。人形は児童が遣いやすいよう簡素に動かせるものですが、その遣い方の本質は日本の伝統的人形遣いと全く同じ発想です。本ワークショップを通して、「言葉に頼らず、息を感じて、気持ちを合わせる体験」を創出します。</p> <p>～多様な得意分野を持つ児童全員が活躍できる機会～ 人形劇鑑賞では、人形を遣う俳優の「演技」に注目が集まりがちですが、人形劇にとって「デザイン」や「工作」などの要素は非常に重要です。本ワークショップでは、オリジナル恐竜を考える作業(デザイン)、考えたキャラクターを作る作業(工作)を取り入れています。児童一人一人が、自分の得意分野を発揮しながら、能動的に参加出来る機会を作り出します。</p>		
<p style="text-align: center;">その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>○参加児童数が少ない場合 参加児童数が少ない場合は、1人の児童が2体以上の恐竜人形を遣うこととなります(例えばトリケラトプスの人形を遣って一旦退場した後、プテラノドンの人形を持って再登場するなど)。また、1体の人形を遣うチームに劇団の出演者も交じるなど、少人数ならではの濃密な体験を実現します。</p> <p>○参加児童数が多い場合 参加児童数が多い場合は、恐竜人形を遣う役割の他に、オリジナル新種恐竜の卵や赤ちゃんの人形などを遣う役割を児童に割り振ることで、参加全児童が共演にしっかりと参加出来るための工夫を施します。</p> <p>○特別支援学校等で実施する場合 人形をより簡素なものにする、簡単な打楽器の演奏パートを加えるなど、実施校の事情に応じてオリジナルの共演プログラムを作成することで、児童の実りある参加を実現します。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

人形劇団ひとみ座

】

①本事業に対する取り組み姿勢

本事業の大きな特長は、学校という日常空間のなかで本物の芸術鑑賞体験が実現できる点にあると考えています。

日常的に教育を受けている体育館が「劇場」となり、日常を共に学び過ごしている仲間と、観劇・体験後すぐにその感想を共有し合える環境は、児童相互の感性や表現力の育成に繋がることは間違いありません。一人で鑑賞が完結してしまうテレビやゲームでは生まれない、瞬間的な感動から生まれる児童間のコミュニケーションが成立することにより、情操教育の相乗効果が生まれます。さらにその効果は、近隣の幼稚園や保育園の園児やスタッフ、地域住民の招待などを積極的に働きかけることで、ますます広がっていきます。

本事業が、学校・教育委員会・周辺地域との連携により、一層教育的効果が高まっていく点を十分に意識して、その告知や協力を制作団体側からも積極的に行っていきます。

以上に加えて、本上演作品ならではの事業に対するアプローチとして、『文化芸術への幅広い興味を誘発』と『異文化コミュニケーション力の育成』を意識しながら、事業を遂行していきます。

個性豊かな児童の幅広い才能の向上に繋がるよう、講師からの一方的な技術指導ではなく、児童の主体的参加を促す指導プログラムを実践します。複数児童が協力して自由に恐竜の動きを想像して創り出すプロセスや、児童オリジナルの新種恐竜を考案する時間を用意することにより、参加全児童の活躍を促して、『文化芸術への幅広い興味』を誘発していきます。

また、作品内容と共演内容のテーマを「子供同士のコミュニケーション」で一貫させることで、コロナ禍の今失われがちな「お互いに人間関係を育み合う機会」を創出します。

東京五輪との相乗効果で全国で推進されてきた「国際化」「異文化理解」のための教育プログラムは、我が国が今後率先して理想的な社会を実現するために必要不可欠な要素です。SDGsにも謳われる「誰一人取り残さない社会形成」を実現するために、自分と異なる考えを理解して受容する能力の育成は極めて重要なポイントです。本事業と学校独自での授業プログラムとを連携させながら、『異文化コミュニケーション力の育成』を達成していきます。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

ワークショップより前に当劇団担当者が実施校に打ち合わせ訪問をします。

担当教員の異動で事業内容を新しい担当の先生が理解されていなかったり、窓口となった先生と実際に事前指導をする先生との間で伝達が行われないこともありますので、直接の訪問により丁寧な説明をするよう心がけます。

恐竜の人形で演じること、自分とは異なる呼吸をしている相手を感じ取ること、そして作品趣旨の「相手に興味を持って人間関係を作り出すことの素晴らしさ」まで、全て一貫したテーマを有しています。これらの項目がスムーズに繋がるように、学校と丁寧に連携をとっていきます。

また、児童生徒が主体的に発表・質問をする場の設定、舞台芸術への興味を更に誘発するためのバックステージツアーなどの意義についても、先生方と丁寧に共有をしていきます。

B区分で事業を実施するに当たっての工夫や実施体制

【公演団体名

人形劇団ひとみ座

】

<p>B区分で事業を実施するに当たっての工夫や実施体制</p>	<p>i) B区分に申請する理由</p> <p>当団体は、令和2年度より本事業B区分団体として採択され、担当地域の教育委員会等を訪問してきました。その中で注力していることは、特に本事業への理解や認知の低い自治体に、優れた文化芸術の鑑賞と参加により児童の発想力やコミュニケーション能力が育まれるその実例を紹介することで、本事業への参加を誘発することです。</p> <p>誰もが生きやすく活躍出来る社会を全国で持続的に達成するためには、次代を担う児童の豊かな感性を育むことは非常に重要な要素です。そのために教育・文化・地域が三位一体となり、豊かな情操教育を実現する必要がある、そこに本事業が果たす役割は甚大です。</p> <p>一方で、学校での公演は広く一般の目に触れにくいのも事実です。そのため、PDCAサイクルによる事業の向上を達成するためには、教育委員会や学校からの丁寧なフィードバックが必要不可欠です。</p> <p>そのためB区分団体が行う業務は、本事業の周知にとどまらず、教育・文化・地域の連携により達成される高度な情操教育について、関係者が認識や課題を共有していく作業だと考えています。</p> <p>令和4年度現在B区分団体として多くの自治体の教育委員会や校長会と課題共有をしてきた経験、文化庁舞台芸術創造活動活性化事業に複数年計画支援(令和2年度より3年間)として採択され毎年多くの創作を継続している実績、さらに創立以来70年間教育機関との連携による活動を続けてきたパイプを活かして、児童劇ジャンルを代表する団体の一つとして、B区分団体の責務を令和5年度からも果たしていきたいと考えています。</p> <p>本事業が学校を中心とした地域のコミュニティを活性化させて、文化芸術の効果によって日本中全ての児童が豊かに育まれる社会を作り出すことに寄与していきます。</p>
	<p>ii) 複数年にわたり同じ地域で実施する上での工夫や、公演及びワークショップの質を向上させるための工夫</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大より2年以上が経ち、様々な学校事業が全国で復活する中、本事業においても令和4年度になり事業中止率は格段に低下しています。一方で本事業参加率の低い地域や自治体では、感染対策の観点から学校での芸術鑑賞や体験に現在でも消極的な学校が目立ちます。複数年同一の地域を担当する利点を活かして、本事業に消極的な自治体の教育委員会や校長会などに対して、同一地域での具体的な開催実績や成果を紹介することで、新たな参加校の増加に寄与していきます。</p> <p>本事業の成果事例を紹介するにあたり、事業案内パンフレットや感染対策マニュアルの他、共演時の映像、取材を受けた際の新聞等記事、さらに児童のアンケートを積極的に活用します。単に全国で芸術鑑賞会が成立しているという事実だけではなく、同一地域内で児童への豊かな情操教育が本事業により実現している成果をわかりやすく提示していきます。</p> <p>また、教育委員会等からの視察を強く促すことで、ワークショップや共演参加に対する要望や感想などを集めて、以降事業の質の向上に繋げていきます。また、リモート配信になる際の成果についても共有して、配信の際のノウハウを蓄積することで、多様な方法による公演やワークショップの実践に繋げていきます。</p> <p>iii) B区分団体が行う業務) 具体的な実施体制</p> <p>広報担当者: 石川哲次(当社取締役、一般社団法人全国専門人形劇団協議会副代表理事)、他2名</p> <p>ブロック内での過去の事業参加実績より、広報を重点的に行う自治体を設定(参加校の少ない自治体を優先)、該当地域の教育委員会や校長会を担当者が直接訪問することで、事業への参加校数の増加に寄与します。また、マスコミ各社及び他団体からの取材や視察の案内を行います。</p>